



# コンフィギュレーションの置換とロールバック

- [コンフィギュレーションの置換とロールバックの前提条件](#) (1 ページ)
- [コンフィギュレーションの置換とロールバックの制約事項](#) (2 ページ)
- [コンフィギュレーションの置換とロールバックについて](#) (2 ページ)
- [コンフィギュレーションの置換とロールバックの使用方法](#) (5 ページ)
- [コンフィギュレーションの置換とロールバックの設定例](#) (13 ページ)
- [コンフィギュレーションの置換およびコンフィギュレーションのロールバックの機能履歴と情報](#) (15 ページ)

## コンフィギュレーションの置換とロールバックの前提条件

コンフィギュレーションの置換とロールバックの機能に対する入力となるコンフィギュレーションファイルの形式は、標準の Cisco ソフトウェア コンフィギュレーションファイルの、次に示すインデント規則に準拠している必要があります。

- 新しい行のすべてのコマンドは、コマンドがコンフィギュレーションサブモードにない限り、インデントなしで開始します。
- レベル1 コンフィギュレーションサブモード内のコマンドは、スペース1個分インデントします。
- レベル2 コンフィギュレーションサブモード内のコマンドは、スペース2個分インデントします。
- 以下、続くサブモード内のコマンドは、同じようにインデントします。

これらのインデント規則には、ソフトウェアが **show running-config** や **copy running-config destination-url** などのコマンドのコンフィギュレーションファイルを作成する方法が記述されています。シスコデバイスで生成されるコンフィギュレーションファイルは、いずれもこうした規則に従います。

2つのコンフィギュレーションファイル（現在の実行コンフィギュレーションと、保存された置換用コンフィギュレーション）を合わせたサイズより大きな空きメモリが必要です。

## コンフィギュレーションの置換とロールバックの制約事項

デバイスに、2つのコンフィギュレーションファイル（現在の実行コンフィギュレーションと、保存された置換用コンフィギュレーション）を合わせたサイズより大きな空きメモリがない場合、コンフィギュレーション置換操作は実行されません。

ネットワークデバイスの物理コンポーネント（物理インターフェイスなど）に関連する特定の Cisco コンフィギュレーション コマンドは、実行コンフィギュレーションについて追加または削除することはできません。たとえば、コンフィギュレーション置換操作を行っても、そのインターフェイスがデバイス上に物理的に存在する場合、現在の実行コンフィギュレーションから **interface ethernet 0** コマンド行を削除することはできません。同様に、**interface ethernet 1** コマンド行は、そのようなインターフェイスがデバイス上に物理的に存在しない場合、実行コンフィギュレーションに追加することはできません。コンフィギュレーション置換操作でこのタイプの変更を試行すると、その特定のコマンド行が失敗したことを示すエラーメッセージが表示されます。

非常にまれなケースですが、ルータをリロードしないと特定の Cisco コンフィギュレーション コマンドを実行コンフィギュレーションから削除できないことがあります。コンフィギュレーション置換操作でこのタイプのコマンドの削除を試行すると、その特定のコマンド行が失敗したことを示すエラーメッセージが表示されます。

## コンフィギュレーションの置換とロールバックについて

### 設定アーカイブ（Configuration Archive）

Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブは、**configure replace** コマンドを使用するコンフィギュレーションのロールバック機能を強化するために、Cisco IOS コンフィギュレーションファイルのアーカイブの保存、編成、管理を行うことを目的とした機能です。この機能の導入前にも、実行コンフィギュレーションのコピーを **copy running-config destination-url** コマンドを使用して保存し、ローカルやリモートに置換ファイルを保管できました。ただし、この方法ではファイルの自動管理を行うことはできませんでした。一方、コンフィギュレーションの置換とロールバック機能では、実行コンフィギュレーションファイルを自動的に Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブに保存できます。アーカイブされたファイルはコンフィギュレーションのチェックポイントとして参照することができ、**configure replace** コマンドを使用して以前のコンフィギュレーション状態に戻すために利用できます。

**archive config** コマンドを使用すると、Cisco IOS コンフィギュレーションをコンフィギュレーションアーカイブに保存できます。その場合、標準のディレクトリとファイル名のプレフィク

スが使用され、バージョン番号（およびオプションでタイムスタンプ）が自動的に付加されます。バージョン番号は連続したファイルを保存するごとに、1つずつ大きくなります。この機能により、保存した Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルを一貫して識別できます。アーカイブに保存する実行コンフィギュレーションの数は指定することができます。アーカイブ内のファイル数が上限値に達すると、次に最新のファイルが保存されるときに、最も古いファイルが自動的に消去されます。**show archive** コマンドを使用すると、Cisco IOS コンフィギュレーション アーカイブに保存されているすべてのコンフィギュレーション ファイルに関する情報が表示されます。

コンフィギュレーション ファイルを保存する Cisco IOS コンフィギュレーション アーカイブは、**configure replace** コマンドで使用することによって、FTP、HTTP、RCP、TFTP のファイルシステム上に配置できます。

## コンフィギュレーションの置換

**configurereplace** 特権 EXEC コマンドにより、現在の実行コンフィギュレーションを、保存しておいた Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルで置換することができます。この機能は、コンフィギュレーションを保存しておいた状態へ戻すために使用することができます。そのコンフィギュレーション状態が保存された後にどのような変更が加えられても、効果的にロールバックさせることができます。

**configurereplace** コマンドを使用するときは、現在の実行コンフィギュレーションと置換するための、保存された Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルを指定する必要があります。置換ファイルは、Cisco IOS デバイスによって作成された完全なコンフィギュレーション (**copyrunning-config destination-url** コマンドによって作成されたものなど) であることが必要です。あるいは、置換ファイルを外部的に作成する場合は Cisco IOS デバイスが作成するファイル形式に完全に準拠していなければなりません。**configurereplace** コマンドを入力すると、現在の実行コンフィギュレーションが指定された置換コンフィギュレーションと比較され、一連の diff が生成されます。2つのファイルの比較に使用されるアルゴリズムは、**showarchiveconfigdifferences** コマンドで使用されるものと同じです。置換コンフィギュレーションの状態になるよう、diffの結果が Cisco IOS パーサーによって適用されます。diffのみが適用されるため、現在の実行コンフィギュレーション上にすでに存在していた設定コマンドを再適用することにより生じる、潜在的なサービスの中断を避けられます。このアルゴリズムでは、順序に依存するコマンド（アクセスリストなど）へのコンフィギュレーション変更を、複数のパスプロセスを通して効果的に実行します。通常的环境下では、コンフィギュレーション置換操作の完了に必要なパスは3つまでであり、ループ動作を防ぐためのパスは最大5つまでに制限されます。

Cisco IOS **copy source-urlrunning-config** 特権 EXEC コマンドは、保存された Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルを実行コンフィギュレーションへコピーするためによく使用されます。**copy source-urlrunning-config** コマンドを **configurereplace target-url** 特権 EXEC コマンドの代わりに使用する場合は、次の大きな違いに注意が必要です。

- **copy source-urlrunning-config** コマンドはマージ動作であり、ソース ファイルと現在の実行コンフィギュレーションの両方のコマンドがすべて保持されます。このコマンドでは、現在の実行コンフィギュレーションにのみ含まれ、ソースファイルには存在しないコマンドが削除されることはありません。これに対し、**configurereplace target-url** コマンドでは、

置換ファイルに存在しないコマンドが現在の実行コンフィギュレーションから削除され、追加する必要があるコマンドが現在の実行コンフィギュレーションに追加されます。

- **copy source-url running-config** コマンドでは、現在の実行コンフィギュレーションにすでに存在しているかどうかにかかわらず、ソースファイル中のすべてのコマンドが適用されます。このアルゴリズムは効率的でない上、場合によってはサービスの停止が発生します。これに対し、**configure replace target-url** コマンドでは適用が必要なコマンドのみを適用し、現在の実行コンフィギュレーションに存在しているコマンドは再適用されません。
- **copy source-url running-config** コマンドでは部分的なコンフィギュレーション ファイルもコピー元として使用できますが、**configure replace target-url** コマンドの置換ファイルとして使用できるのは、完全な Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルのみです。

コンフィギュレーション置換操作にロック機能が導入されました。**configure replace** コマンドが使用されると、コンフィギュレーション置換中、デフォルトで実行コンフィギュレーションファイルがロックされます。このロックメカニズムによって、置換動作の実行中に他のユーザが実行コンフィギュレーションを変更しようとしたために、置換動作の不正終了が発生することを防止できます。**no lock** キーワードを **configure replace** コマンドの実行時に使用すると、実行コンフィギュレーションのロックをディセーブルにできます。

実行コンフィギュレーションのロックは、コンフィギュレーションの置換動作終了時に自動的にクリアされます。**show configuration lock** コマンドを使用すると、現在実行コンフィギュレーションに適用されているロックをすべて表示できます。

## 設定のロールバック

ロールバックの概念は、データベースの操作ではトランザクション プロセス モデルに由来します。データベース トランザクションでは、あるデータベースのテーブルに一連の変更を加えることがあります。その後、変更を実行する（変更を恒久的に適用する）か、変更をロールバックする（変更を破棄してテーブルを以前の状態に戻す）かを選択することになります。ここでロールバックが意味するのは、変更のログを含んだジャーナルファイルが破棄され、何の変更も加えられないということです。ロールバック操作の結果として、加えた変更が適用される前の状態に戻ります。

**configure replace** コマンドを使用することで、以前のコンフィギュレーション状態へ戻ることが可能になり、コンフィギュレーション状態の保存後に加えた変更を効率的にロールバックさせることができます。Cisco IOS コンフィギュレーション ロールバックは、適用された一連の変更をもとにロールバック動作を行うのではなく、保存された Cisco コンフィギュレーションファイルに基づいた特定のコンフィギュレーション状態へ戻るといったコンセプトを採用しています。このコンセプトは、チェックポイント（データベースの保存されたバージョン）に特定の状態を保存しておくという、データベースの考え方に類似しています。

コンフィギュレーションのロールバック機能が必要な場合、コンフィギュレーションの変更前先立って Cisco IOS 実行コンフィギュレーションを保存する必要があります。次に、コンフィギュレーションを変更した後に（**configure replace target-url** コマンドを使用し）保存したコンフィギュレーションファイルを使って変更をロールバックします。保存された Cisco IOS コン

フィギュレーションファイルならどれでも置換コンフィギュレーションとして指定できるため、一部のロールバックモデルのように、ロールバックの数が制限されることもありません。

## コンフィギュレーション ロールバック変更確認

コンフィギュレーションロールバック変更確認機能により、コンフィギュレーション変更の実行に際して確認を要求するようオプションで設定できます。この確認が受信できない場合、コンフィギュレーションは変更が適用される前の状態に戻されます。このメカニズムは、ネットワークデバイスとユーザまたは管理アプリケーションとの接続において、コンフィギュレーション変更に起因する切断を防止するものです。

## コンフィギュレーションの置換とロールバックの利点

- コンフィギュレーションの変更を効率的にロールバックさせて、以前のコンフィギュレーション状態へ戻ることが可能。
- デバイスをリロードしたり、CLIで実行コンフィギュレーションファイルに加えた変更を手動で元に戻したりすることなく、現在の実行コンフィギュレーションファイルをスタートアップコンフィギュレーションファイルと置換できるため、システムのダウンタイムが減少。
- 保存しておいたどの Cisco IOS コンフィギュレーション状態に戻すことも可能。
- 追加や削除が必要なコマンドだけが影響を受ける場合、デバイスに完全なコンフィギュレーションファイルを適用することができるため、コンフィギュレーションの変更が簡素化。
- `configurereplace` コマンドを `copy source-url/running-config` コマンドの代用として使用する場合、現在の実行コンフィギュレーションに存在しているコマンドを再度適用することがないため、効率が向上し、かつサービス停止のリスクを回避。

## コンフィギュレーションの置換とロールバックの使用方法

### コンフィギュレーションアーカイブの作成 (CLI)

`configure replace` コマンドを使用するために、前提条件となる設定はありません。`configure replace` コマンドと Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブおよび `archive config` コマンドとの併用は任意ですが、コンフィギュレーションロールバックの使用にあたっては大きな利点があります。`archive config` コマンドを使用する前に、コンフィギュレーションアーカイブを設定しておく必要があります。コンフィギュレーションアーカイブの特性を設定するには、次の作業を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configureterminal</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure terminal</pre>	<p>グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 3	<p><b>archive</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# archive</pre>	<p>アーカイブ コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
ステップ 4	<p><b>path URL</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-archive)# path flash:myconfiguration</pre>	<p>Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブの場所と、ファイル名のプレフィックスを指定します。</p> <p>(注) パスのところでファイルの代わりにディレクトリを指定する場合、ディレクトリ名は <b>path flash:/directory/</b> のように後ろにスラッシュを付ける必要があります。このスラッシュはファイル名の後ろでは必要ありません。ディレクトリを指定する場合にだけ使います。</p>
ステップ 5	<p><b>maximum number</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-archive)# maximum 14</pre>	<p>(任意) Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブに保存される実行コンフィギュレーションのアーカイブ ファイル数の上限値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>number</i> 引数は、Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブに保存される実行コンフィギュレーションのアーカイブ ファイル数の上限値を示します。有効な値は 1 ~ 14 です。デフォルトは 10 です。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>(注) このコマンドを使用する前に、<b>path</b> コマンドを設定して Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>
ステップ 6	<p><b>time-period</b> 分</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-archive)# time-period 1440</pre>	<p>(任意) CiscoIOS コンフィギュレーションアーカイブに実行コンフィギュレーションのアーカイブ ファイルを自動保存する間隔を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブに現在の実行コンフィギュレーションのアーカイブ ファイルをどれほどの頻度で自動保存するかを、minutes 引数により分単位で指定します。</li> </ul> <p>(注) このコマンドを使用する前に、<b>path</b> コマンドを設定して Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブの位置とファイル名プレフィックスを指定しておく必要があります。</p>
ステップ 7	<p><b>end</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config-archive)# end</pre>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>
ステップ 8	<p><b>archiveconfig</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device# archive config</pre>	<p>現在の実行コンフィギュレーションファイルをコンフィギュレーションアーカイブに保存します。</p> <p>(注) このコマンドを使用する前に、<b>path</b> コマンドを設定する必要があります。</p>

## コンフィギュレーションの置換またはロールバックの実行 (CLI)

保存された Cisco IOS コンフィギュレーションファイルで現在の実行コンフィギュレーションファイルを置換するには、次の作業を実行します。



- (注) この手順の前に、コンフィギュレーションアーカイブを作成しておく必要があります。詳細については、[コンフィギュレーションアーカイブの作成 \(CLI\)](#) を参照してください。次に、現在の実行コンフィギュレーションで問題が生じた場合に、アーカイブしておいたコンフィギュレーションに戻す手順の詳細を示します。

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p><b>enable</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device&gt; enable</pre>	<p>特権 EXEC モードをイネーブルにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。</li> </ul>
ステップ 2	<p><b>configure replace target-url [nolock] [list] [force] [ignore case] [revert trigger [error]] [timer minutes]   time minutes]</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure replace flash: startup-config time 120</pre>	<p>保存しておいた Cisco IOS コンフィギュレーションファイルで現在の実行コンフィギュレーションファイルを置換します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>target-url</b> 引数は、<b>archive config</b> コマンドで作成されたコンフィギュレーションファイルなど、現在の実行コンフィギュレーションと置換する、保存された Cisco IOS コンフィギュレーションファイルの URL です (Cisco IOS ファイルシステムでアクセス可能なもの)。</li> <li>• <b>list</b> キーワードは、コンフィギュレーション置換動作のパスごとに、Cisco IOS ソフトウェア パーサーによって適用されるコマンドラインのリストを表示します。実行されたパスの総数も表示されます。</li> <li>• <b>force</b> キーワードは、現在の実行コンフィギュレーションから指定した Cisco IOS コンフィギュレーションファイルへの置換を、確認プロンプトを出さずに実行します。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>timeminutes</b> キーワードおよび引数は、現在の実行コンフィギュレーションファイルの置換確認のために <b>configure confirm</b> コマンドを入力する制限時間 (分単位) を指定します。 <b>configure confirm</b> コマンドが指定の制限時間内に入力されない場合、コンフィギュレーション置換操作は自動的に戻されます (つまり、現在の実行コンフィギュレーションファイルが <b>configure replace</b> コマンド入力以前のコンフィギュレーション状態へと回復されます)。</li> <li>• <b>no lock</b> キーワードは、コンフィギュレーション置換操作中に他のユーザが実行コンフィギュレーションを変更しないように実行コンフィギュレーションファイルをロックする機能をオフにします。</li> <li>• <b>revert trigger</b> キーワードは、元のコンフィギュレーションへ戻すトリガーを次の内容から設定します。             <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>error</b> : エラー時に元のコンフィギュレーションに戻します。</li> <li>• <b>timerminutes</b> : 指定した時間が過ぎると元のコンフィギュレーションに戻します。</li> </ul> </li> <li>• <b>ignore case</b> キーワードで、コンフィギュレーションに確認コマンドの大文字と小文字の区別を無視させることができます。</li> </ul>
<p>ステップ 3</p>	<p><b>configure revert { now timer {minutes  idle minutes} }</b></p> <p>例 :</p> <pre>Device# configure revert now</pre>	<p>(任意) 時間指定ロールバックをキャンセルしてロールバックを即時トリガーする、または時間指定ロールバックのパラメータをリセットするには、特権 EXEC モードで <b>configure revert</b> コマンドを使用します。</p>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>now</b> : ロールバックをただちにトリガーします。</li> <li>• <b>timer</b> : コンフィギュレーションを元に戻すタイマーをリセットします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 元に戻す時間を分単位で新たに指定するには、<i>minutes</i> 引数を <b>timer</b> キーワードとともに使用します。</li> <li>• 保存されたコンフィギュレーションに戻すまでに、操作が行われないアイドル時間を最大どれほど長く許容できるかを設定するには、分単位の時間とともに <b>idle</b> キーワードを使用します。</li> </ul> </li> </ul>
ステップ 4	<b>configureconfirm</b> 例 : Device# configure confirm	(任意) 保存しておいた Cisco IOS コンフィギュレーション ファイルの現在の実行コンフィギュレーション ファイルへの置換を確認します。  (注) このコマンドは、 <b>time seconds</b> キーワードと <b>configure replace</b> コマンドの引数が指定されているときのみ使用します。
ステップ 5	<b>exit</b> 例 : Device# exit	ユーザ EXEC モードに戻ります。

## 機能のモニタリングおよびトラブルシューティング (CLI)

コンフィギュレーションの置換とロールバック機能をモニタおよびトラブルシューティングするには、この手順を実行します。

### 手順

#### ステップ 1 enable

このコマンドを使用して、特権EXECモードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。

例：

```
Device> enable
Device#
```

## ステップ2 showarchive

Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブに保存されているファイルに関する情報を表示するには、次のコマンドを使用します。

例：

```
Device# show archive
There are currently 1 archive configurations saved.
The next archive file will be named flash:myconfiguration-2
Archive # Name
0
1 flash:myconfiguration-1 <- Most Recent
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
```

次に、実行コンフィギュレーションのアーカイブファイルをいくつか保存した状態で **showarchive** コマンドを使用した場合の出力例を示します。この例では、保存されるアーカイブファイルの最大数が 3 に設定されています。

例：

```
Device# show archive
There are currently 3 archive configurations saved.
The next archive file will be named flash:myconfiguration-8
Archive # Name
0
1 :Deleted
2 :Deleted
3 :Deleted
4 :Deleted
5 flash:myconfiguration-5
6 flash:myconfiguration-6
7 flash:myconfiguration-7 <- Most Recent
8
9
10
11
12
13
14
```

### ステップ3 debugarchiveversioning

このコマンドを使用して、Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブのアクティビティのデバッグを有効にして、コンフィギュレーションの置換とロールバックをモニタおよびトラブルシューティングします。

例：

```
Device# debug archive versioning
Jan 9 06:46:28.419:backup_running_config
Jan 9 06:46:28.419:Current = 7
Jan 9 06:46:28.443:Writing backup file flash:myconfiguration-7
Jan 9 06:46:29.547: backup worked
```

### ステップ4 debugarchiveconfigtimestamp

このコマンドを使用して、コンフィギュレーション置換操作の各必須段階の処理時間、および操作中のコンフィギュレーションファイルのサイズのデバッグをイネーブルにします。

例：

```
Device# debug archive config timestamp
Device# configure replace flash:myconfiguration force
Timing Debug Statistics for IOS Config Replace operation:
    Time to read file usbflash0:sample_2.cfg = 0 msec (0 sec)
    Number of lines read:55
    Size of file      :1054
Starting Pass 1
    Time to read file system:running-config = 0 msec (0 sec)
    Number of lines read:93
    Size of file      :2539
    Time taken for positive rollback pass = 320 msec (0 sec)
    Time taken for negative rollback pass = 0 msec (0 sec)
    Time taken for negative incremental diffs pass = 59 msec (0 sec)
    Time taken by PI to apply changes = 0 msec (0 sec)
    Time taken for Pass 1 = 380 msec (0 sec)
Starting Pass 2
    Time to read file system:running-config = 0 msec (0 sec)
    Number of lines read:55
    Size of file      :1054
    Time taken for positive rollback pass = 0 msec (0 sec)
    Time taken for negative rollback pass = 0 msec (0 sec)
    Time taken for Pass 2 = 0 msec (0 sec)
Total number of passes:1
Rollback Done
```

### ステップ5 exit

このコマンドを使用して、ユーザ EXEC モードに戻ります。

例：

```
Device# exit
Device>
```

# コンフィギュレーションの置換とロールバックの設定例

## コンフィギュレーションアーカイブの作成

次の例は、Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブの初期設定を実行する方法を示しています。この例では、`flash:myconfiguration` がコンフィギュレーションアーカイブの保存位置およびファイル名のプレフィックスとして設定され、保存するアーカイブファイルが最大 10 個に設定されます。

```
configure terminal
!
archive
  path flash:myconfiguration
  maximum 10
end
```

## 現在の実行コンフィギュレーションを保存された Cisco IOS コンフィギュレーションファイルで置換

次の例では、`flash:myconfiguration` という名前で保存された Cisco IOS コンフィギュレーションファイルで現在の実行コンフィギュレーションを置換する方法を示します。`configurereplace` コマンドでは、確認プロンプトでインタラクティブに操作を進めます。

```
Device# configure replace flash:myconfiguration
This will apply all necessary additions and deletions
to replace the current running configuration with the
contents of the specified configuration file, which is
assumed to be a complete configuration, not a partial
configuration. Enter Y if you are sure you want to proceed. ? [no]: Y
Total number of passes: 1
Rollback Done
```

次の例では、コンフィギュレーション置換操作中に適用されるコマンドラインを表示するために、`list` キーワードを指定しています。

```
Device# configure replace flash:myconfiguration list
This will apply all necessary additions and deletions
to replace the current running configuration with the
contents of the specified configuration file, which is
assumed to be a complete configuration, not a partial
configuration. Enter Y if you are sure you want to proceed. ? [no]: Y
!Pass 1
!List of Commands:
no snmp-server community public ro
snmp-server community mystring ro

end
Total number of passes: 1
Rollback Done
```

## スタートアップコンフィギュレーションファイルへの復帰

次の例に、**configure replace** コマンドを使用して Cisco IOS スタートアップコンフィギュレーションファイルへ復帰する方法を示します。この例は、オプションの **force** キーワードを使用して、インタラクティブユーザプロンプトをオーバーライドする方法を示しています:

```
Device# configure replace flash:startup-config force
Total number of passes: 1
Rollback Done
```

## configure confirm コマンドを使用したコンフィギュレーション置換操作の実行

次に、**configure replace** コマンドを **time minutes** キーワードおよび引数と共に使用する例を示します。現在実行中のコンフィギュレーションファイルの置換を実行するには、指定の制限時間内に **configure confirm** コマンドを入力する必要があります。**configure confirm** コマンドが指定の制限時間内に入力されない場合、コンフィギュレーション置換操作は自動的に戻されます（つまり、現在実行中のコンフィギュレーションファイルが **configure replace** コマンド入力以前のコンフィギュレーション状態へと回復されます）。

```
Device# configure replace flash:startup-config time 120
This will apply all necessary additions and deletions
to replace the current running configuration with the
contents of the specified configuration file, which is
assumed to be a complete configuration, not a partial
configuration. Enter Y if you are sure you want to proceed. ? [no]: Y
Total number of passes: 1
Rollback Done
Device# configure confirm
```

次に、**configure revert** コマンドを **timer** キーワードとともに使用する例を示します。時間指定ロールバックをキャンセルしてロールバックを即時トリガーする、または時間指定ロールバックのパラメータをリセットするには、**configure revert** コマンドを入力する必要があります。

```
Device# configure revert timer 100
```

## コンフィギュレーションロールバック操作の実行

次の例は、現在実行中のコンフィギュレーションへの変更を行い、その変更をロールバックする方法を示しています。コンフィギュレーションロールバック操作の一部として、ファイルに変更を加える前に現在の実行コンフィギュレーションを保存する必要があります。この例では、現在実行中のコンフィギュレーションの保存に **archive config** コマンドが使用されています。**configure replace** コマンドで生成された出力は、ロールバック操作を完了するために1つのパスのみが実行されたことを示します。



(注) **archive config** コマンドを使用する前に、**path** コマンドで Cisco IOS コンフィギュレーションアーカイブのファイルの位置とファイル名のプレフィックスを指定する必要があります。

次のように、設定アーカイブの現在実行中のコンフィギュレーションを保存します。

```
archive config
```

それから、次の例に示すようにコンフィギュレーションの変更を入力します。

```
configure terminal
!
user netops2 password rain
user netops3 password snow
exit
```

実行コンフィギュレーションファイルに変更を加えた後、それらの変更をロールバックさせて、変更前のコンフィギュレーションに戻したくなくなります。**show archive** コマンドは、交換ファイルとして使用される設定のバージョンを確認するために使用されます。次の例に示すように、**configure replace** コマンドは交換コンフィギュレーションファイルへ戻すために使用されます。

```
Device# show archive
There are currently 1 archive configurations saved.
The next archive file will be named flash:myconfiguration-2
Archive # Name
0
1 flash:myconfiguration-1 <- Most Recent
2
3
4
5
6
7
8
9
10
Device# configure replace flash:myconfiguration-1
Total number of passes: 1
Rollback Done
```

## コンフィギュレーションの置換およびコンフィギュレーションのロールバックの機能履歴と情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェアリリーストレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェアリリースのみを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

リリース	変更箇所
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	この機能が導入されました。